

2013.3.23



追悼一名指揮者サヴァリツシュを偲んで



プログラム

今年2月22日、我が国で最も親しまれていたドイツを代表する巨匠指揮者の一人、ウォルフガング・サヴァリツシュが亡くなりました。享年89歳。1923年、ミュンヘン生まれ。1947年にアウクスブルク市立歌劇場でフンパーディングの歌劇「ヘンゼルとグレーテル」でデビュー。以降1953年アーヘン市立歌劇場音楽総監督、1957年には34歳でバイロイト音楽祭に初登場、1971年バイエルン国立歌劇場の音楽監督、82年からは音楽総監督として1992年までその地位に留まり、オペラ指揮者としての地位を確立しました。一方で1960年から1970年までウィーン交響楽団首席指揮者、1970年から1980年までスイス・ロマン管弦楽団首席指揮者、1993年から2003年までフィラデルフィア管弦楽団の音楽監督を歴任、オペラとオーケストラ両分野で成功を納めた指揮者の一人として活躍しました。日本には1964年に初めてNHK交響楽団を指揮して以来、毎年のように訪れ、人気を博しましたが2004年の来日が最後となりました。サヴァリツシュの指揮はどこまでも端正で熱狂はしませんが、音の構築力に優れ、バランス感覚の良さと品の良い美しい響き、澆漓としたフレッシュな音造りは大きな魅力でした。今日はサヴァリツシュのライヴ音源の中から優れた演奏の数々をお聴き頂きます。

ヨハネス・ブラームス (1833~1897): ピアノ協奏曲第2番変ロ長調 *op.83* ~ 抜粋

エミール・ギレリス (ピアノ)

ウォルフガング・サヴァリツシュ指揮NHK交響楽団
(1972. 4.19 東京文化会館大ホールでのLive)



ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~1756): (レオポルド・ストコフスキー編曲) トッカータとフーガニ短調

ウォルフガング・サヴァリツシュ指揮フィラデルフィア管弦楽団
(2000.11.17 アカデミー・オブ・ミュージックでのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827): 劇音楽“エクモント”序曲 *op.84*

ウォルフガング・サヴァリツシュ指揮フィラデルフィア管弦楽団
(1996.5.16 サントリーホールでのLive)

*** 休憩 ***

フェルティナン・エロルト (1791~1833): 歌劇“ザンパ”序曲

ウォルフガング・サヴァリツシュ指揮NHK交響楽団
(1988.5.1 サントリーホールでのLive)

ウォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791): 歌劇“フィガロの結婚” K.492から

序曲 ~ 第二幕 ケルビーノのカンツォーナ “恋とはどんなものかしら”
第三幕 伯爵夫人のアリア “楽しい思いではどこへ”

スキャンヌ・メンツァー (メゾ・ソプラノ) …ケルビーノ/カリータ・マツテイラ (ソプラノ) …伯爵夫人
ウォルフガング・サヴァリツシュ指揮ウィーン交響楽団
(1991.9.11 日本武道館でのLive)

ロベルト・シューマン (1810~1856): 交響曲第4番ニ短調 *op.120*

ウォルフガング・サヴァリツシュ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(2003.10.2 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)